

三つの地域が協力して

見守り活動

東北、苗穂、東地区では、「地域の子どもを見守る」を合言葉に、地区を越えた防犯の取り組みを始めています。

昨年十一月、三地区の連合町内会と学校、PTA、警察が連携して「東北・苗穂・東地区の子どもを見守る会」が発足しました。現在、三百人近くの住民が見守りボランティアに登録し、買い物や犬の散歩を行いながら地域内をパトロールして、子どもたちを温かく見守っています。

ボランティアの皆さんは「子どもが犬をかわいがってくれる」「出勤途中の皆さんに『ご苦労様』と感謝されます」とパトロール中の様子を話してくれました。子どもた



▲見守りボランティアは腕章、犬はバンダナをつけてパトロール



▲作成中の安全マップを広げる見守りボランティアの皆さん

ちや地域にもしつかり認知されているようです。

苗穂連合町内会の大島脩会長も小学生の登校にあわせてパトロールを行っています。

「最近では小学生のほうから『おはようございます』といさつされるようになってきました」とうれしそうに話す大島会長。

「子どもたちが地域の活動を理解して、やがて大人にな

ったときに、この輪に加わってくれればいいですね」と語ってくれました。

同見守る会では、現在、子ども110番の家（左下参照）などの情報を掲載した安全マップの完成を目指しています。

子どもを見守る

ネットワーク

これまでも、地域やPTAによって独自に子どもを見守る取り組みは行われていたが、最近、パトロールや安全マップ作りなどで他団体と連携を図る動きが活発になっていきます。

区は、こうした各地区の取り組みがより効果をあげられるよう、活動を進める上で必要な情報提供や各団体の活動内容の情報交換を目的に、各取り組み団体のネットワークづくりを進めています。



安心・安全なまちをつくるためには、そこに暮らす一人ひとりが自分たちの住む街に関心を持ち、安全に関する意識を高めることが大切です。家族や地域の仲間と交通安全や防犯について話し合い、活動を始めてみませんか。

地域とのつながりを

深めながら防犯を



札幌市立伏見小学校
香西尉男先生

札幌市立伏見小学校では、平成十六年十二月に「伏見の子どもを見守る会」が発足し、学校、PTA、町内会などが連携して防犯に取り組んでいます。

「見守る会」の活動について、同校の香西尉男先生にお話を伺いました。

学校の集団下校訓練にあわせて地域の見守り活動を設定するなど、お互いに協力しあって防犯活動を行っ

ています。

見守る会が各家庭に配布した防犯パトロール用の腕章を、授業参観日に着用して来校する方がいるなど、皆さん防犯意識が高いです。子どもの安全を守るためには家庭や地域の協力が本当に大切だと感じています。「見守る会」ができたことによりお互いの連携がしやすくなりました。

防犯活動ばかりではなく、学校の特別活動の中で、地域の皆さんに講師としておいでいただき、町内会のごとや伏見の歴史などのお話をさせていただいております。日ごろから地域と子どもたちのつながりを深めながら、地域全体で防犯を考えたいと思っています。

子ども110番の家

子どもが危険を感じたときの緊急避難先が「子ども110番の家」。お子さんと一緒に通学路を確認してみたいかがでしょうか。



※図柄は地域によって異なります。